2017年は、カスリーン台風から70年

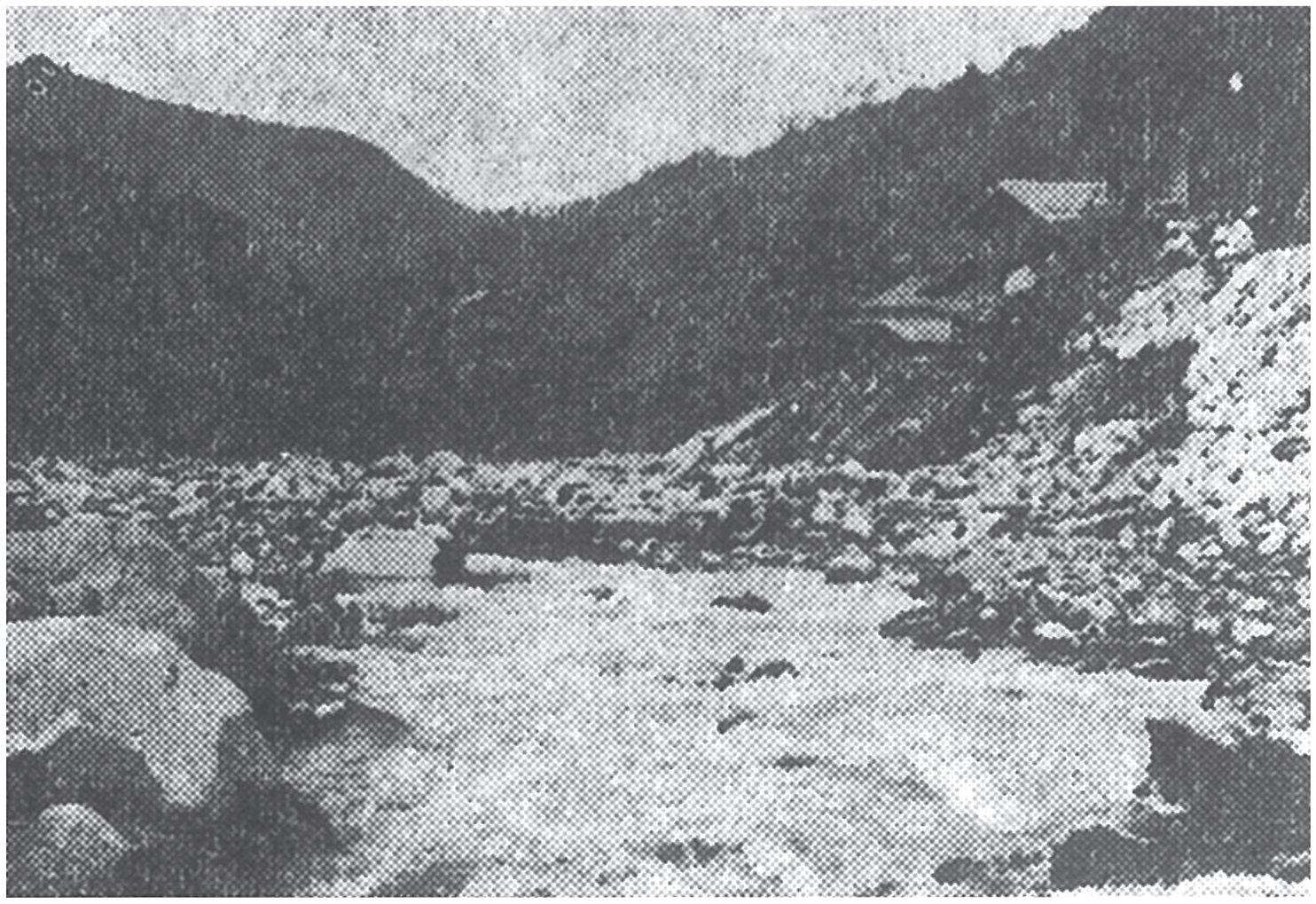
片品川流域（赤城川）の土砂災害

片品川流域の赤城川（砂川）においても土石流が発生し、鷹の巣、大洞、砂川、青木といった集落などで深刻な被害を出し、広い河原に跡を残しました。

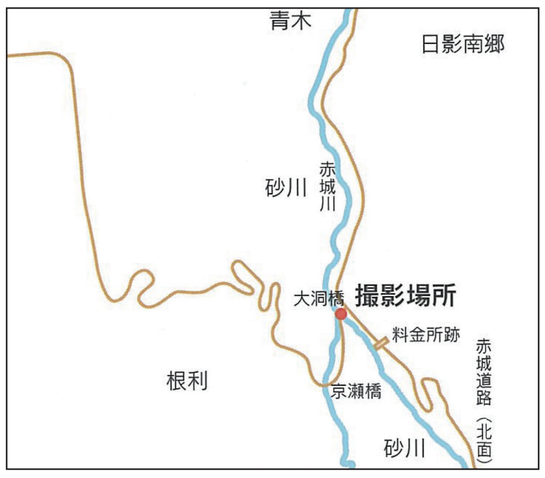
赤城川の利根村大洞での山地崩壊状況について、利根村誌には次のように記されています。

『15日正午頃は、まるで空からロープでも下げたような雨である。水の不安が高まる、午后三時過ぎであったろう、雷のような音がした。雷が鳴っては之で天気になるだろうと話して居る中に、又、雷のような音が続いて起る。瞬間、山崩れかと思ってみると奥の方の山は至る所山崩れ、それが谷間一面大沼となり、もり上がって荒れ狂う濁流の上を大石、大木が地響きを立てて押して来る。その地響きに続いて前の山、裏の山と次々に崩れて奔流と激突して数十間もはね上がり、村一面におそいかかった。』

この大災害の対策事業として、赤城川も直轄砂防区域に編入され、昭和25（1950）年8月から砂川第一ダムが着工、昭和62（1987）年度には砂川第六ダムも完成しました。また、昭和47（1972）年7月には砂川流路工に着工し、昭和52（1977）年12月に完成しました。。恐ろしいほどの氾濫をみせ多くの住民を苦しめた赤城川は、これらの砂防工事によって現在は安定した流れの川となっています。



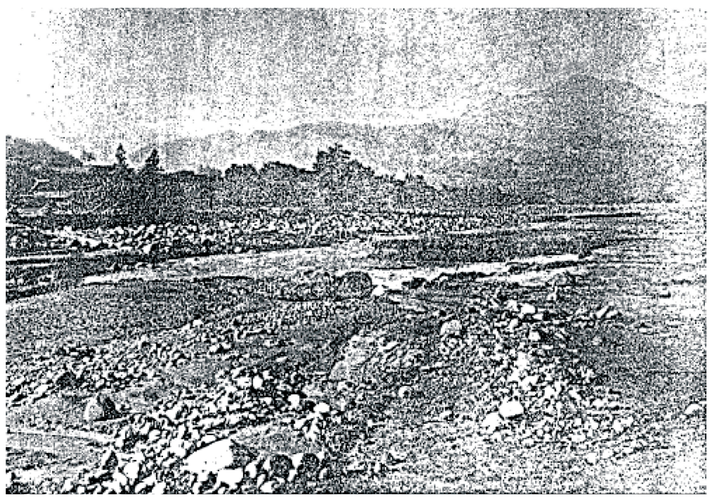
（出典：写真と新聞で見るカスリーン台風）



左写真撮影場所

久呂保村の各河川の出水状況

永井沢、大久保沢、入沢久保、三室久保、その他小さな谷も大規模な出水となり、特に三室久保は、山の崩壊によって堰止められ、水が一挙に押し出し、久保の農地はもとより、小岩鎌沢部落の家屋道路鉄橋農耕地に大被害を与えました。また、利根片品両対岸岩本との交通も途絶え、鉄道も不通となる大被害でした。



片品川堤防決壊箇所の土砂氾濫の状況

（出典：久呂保村誌）